

だから、UD



実践型UD専門講座報告会



一番大切なもの 「心のUD」

いろいろな人の立場に立って考える「心のUD」があって初めて、本当に使いやすく、優しい「まち」や「もの」、「情報・サービス」などになるのです。

第4回 心のユニバーサルデザイン(UD)を広げ「やさしくまもと」に!

「実践型UD専門講座」を終えて感じたこと 受講生 古賀 清美

講座の参加者みんなのまなざしがとても真剣で、あたたかい…。4回にわたって行われた「実践型UD専門講座」を終えて、肌で強く感じたことです。

この講座では、「観光とUD」をテーマに、一般の参加者や市町村職員が一緒になってグループをつくり、熊本城やアーケード街などにある段差や案内板、トイレなどを点検してきました。そして最終日にはその結果と改善案をまとめ、報告会を行いました。

「もし、自分が初めてここを訪れたとしたら?」という思いであらためてまちを見渡したとき、まず「案内板や標識などの情報が不足しているため、目的地までたどり着けないのではないか」「トイレの設置場所など大切な情報が、ひと目で分かるようなサインに統一できていないのでは?」など、住み慣れているはず

のまちの中にも疑問や新たな発見がありました。その疑問や新たな発見を出発点に、「観光客にとって、歩きやすく、親しみやすいまちにするためにはどうしたらいいのか」という「声」を出し合い、最終的に報告会で行政や関係団体に改善案を提案するという「かたち」を表すことができました。

今回の講座を通して最も印象的だったのは、いろいろな立場の人たちを思いやり、優しく接しようとする「心のUD」が大切であるという思いが、参加者みんなの心に生まれたことでした。一人ひとりを大切にする「心のUD」を広げることで「やさしくまもと」になるよう、この講座で得た知識や体験を生かしながら、出会った仲間たちと一緒に活動していきたい、そんな気持ちでいっぱいになっています。

ハンセン病を正しく理解しましょう



～偏見や差別を二度と繰り返さないために～

県内各地を訪れる県のふるさと訪問事業に参加された方々がホテルから正当な理由なく宿泊を拒否されるという事態が発生しました。このことは、ハンセン病に対する偏見と差別に基づいたものであり、あってはならないことです。

熊本県では、ハンセン病問題をはじめ同和問題など、さまざまな人権問題の解消に向けて啓発に取り組んできましたが、このような偏見や差別を二度と繰り返さないために、啓発活動をより一層進めていかなければならないと考えています。

今後も県民の皆さんと一緒に、一人ひとりがかけがえのない存在として、お互いの人権を尊重し合える社会の実現を目指していきます。

Q1 ハンセン病はどんな病気ですか。

A1 「らい菌」による感染症で、遺伝はしません。かつては遺伝する病気だと誤解されていましたが、ノルウェーのハンセン医師が発見した「らい菌」という細菌による感染症であることが分かっています。

Q2 ハンセン病はうつりやすいんですか。

A2 そうではありません。「らい菌」は感染力がとても弱く、ハンセン病療養所で働いていた職員で感染した人は一人もいません。また、握手をしたり、飲食・入浴などの日常生活で感染することはありません。

Q3 ハンセン病は治るんですか。

A3 治ります。ハンセン病は治療法が確立している現在では、早期発見と早期治療により、障害を残すことなく、比較的短期間の外来治療で治すことができます。

Q4 ハンセン病問題は、人権にかかわる問題ですが、そもそも人権とは、どういうことですか。

A4 人権とは、住むこと、食べることが満たされること、生命・身体が守られること、自由に発言できることなど、すべての人が生まれながらに持っている、人間らしく生きていくための基本的な権利です。

<「ハンセン病問題への取り組み」については、熊本県ホームページでもご覧になれます> <http://www.pref.kumamoto.jp/health/hansen/index.html>

お問い合わせ先

熊本県健康づくり推進課

☎096-383-1111 (内線7076) FAX096-383-0498
電子メール kenkousuisin@pref.kumamoto.lg.jp